

AI 特許文書作成支援サービス比較レポート —「TOKKYO.AI」「AI Samurai」「アッピアエンジン」「ユアサポ AI」の技術と市場動向を徹底解説



Genspark
Apr 10, 2025

インスピレーションと洞察から生成されました [11 ソースから](#)
これで必要な情報が揃いましたので、専門家向けのレポートを作成します。

AI 特許文書作成支援サービス比較レポート —「TOKKYO.AI」「AI Samurai」「アッピアエンジン」「ユアサポ AI」 の技術的特徴と市場動向—

エグゼクティブサマリー

本レポートでは、特許文書作成支援サービスの最前線を行く 4 つの AI サービス「TOKKYO.AI」「AI Samurai」「アッピアエンジン」「ユアサポ AI」について、それぞれの技術的特徴、企業導入事例、サービスの狙いや現状、評判、将来予測を専門の見地から分析する。特許業界における DX（デジタルトランスフォーメーション）が加速する中、これらのサービスは生成 AI や ChatGPT などの先端技術を活用し、特許明細書作成の効率化と品質向上を実現している。本レポートは、知財部門や特許事務所の意思決定者が適切なサービス選択を行うための客観的な比較情報を提供することを目的とする。

1. 各サービスの概要

1.1 TOKKYO.AI

開発企業: リーガルテックグループ Tokkyo.Ai 株式会社

基本概要: 「プライベート特許検索®」を中心に、企業の R&D および知的財産 (IP) チームの連携を支援する AI システム。特に「生成 AI Plus」では、ChatGPT-4o を実装し、弁理士への出願相談用の発明提案書作成支援などが可能。

提供開始時期: 詳細な提供開始時期は明記されていないが、2021 年頃から本格的なサービス提供を開始したと推測される。

1.2 AI Samurai

開発企業: 株式会社 AI Samurai（大阪大学と北陸先端科学技術大学院大学による発明創出 AI®企業）

基本概要: 特許申請支援システム「AI Samurai ONE」を中心に、AI 技術を活用した特許文書作成支援、審査シミュレーションを提供。「AI Samurai ZERO」では対話型の特許書類作成システムも展開している。

提供開始時期: 「AI Samurai ONE」の先行予約は 2024 年に開始された模様。

1.3 アップリアエンジン

開発企業: Smart-IP 株式会社

基本概要: 特許明細書作成に特化したクラウドサービスで、「スマートドラフティングシステム」として位置づけられている。ChatGPT を搭載した自動文書作成機能と案件管理機能を提供。

提供開始時期: 2023 年初頭に α 版の利用申込みが開始され、その後正式版がリリースされた。

1.4 ユアサポ AI

開発企業: 株式会社ユアサポ/XTech Ventures 株式会社

基本概要: Microsoft Word アドインとして動作する生成 AI 活用型の特許出願書類作成支援ツール。事務所や企業のこれまでの文書スタイルを学習し、「自分が書いたような」文章を生成する特徴がある。

提供開始時期: 2025 年 4 月頃に正式リリースされた模様。

2. 技術的特徴とシステム構成

2.1 TOKKYO.AI

AI 技術の活用方法: ChatGPT-4o を実装した「生成 AI Plus」は、特許明細書の自動作成や発明提案書フォーマットの作成支援を行う。「AI 検索」機能は入力文章から関連特許を瞬時に検索する。

システムアーキテクチャ: 独自のビッグデータ処理技術「X システム」を採用し、数億件の特許を短時間で処理可能。プライベートクラウドで企業ごとの検索専用環境を構築。

ユーザーインターフェース: 最新の UI と直感的な操作感を実現し、検索履歴や検索式をフォルダで簡単に管理できる機能を実装。

生成 AI/ChatGPT の活用状況: ChatGPT-4o を実装しており、特許明細書の自動生成に加

え、英文での明細書案出力も可能で海外出願業務の効率化も見込める。

2.2 AI Samurai

AI 技術の活用方法: 特許庁の全データを独自のデータベースとして構築し、検索式なしで数十秒で全件調査を可能にする高速検索技術を実装。また生成 AI による特許文書作成支援機能も提供。

システムアーキテクチャ: 「かんたん検索」「詳細検索」「審査シミュレーション」「特許文書作成支援」の4つの主要機能を統合的に提供するシステム構成。

ユーザーインターフェース: 直感的な入力システムにより、専門知識がなくても利用可能なインターフェースを実現。

生成 AI/ChatGPT の活用状況: 「AI Samurai ZERO」では GPT を活用し、発明に関する質問を自動的に生成して対話形式で特許書類を作成。約 3 分で明細書ドラフトの自動生成が可能。

2.3 アップピアエンジン

AI 技術の活用方法: ChatGPT を搭載した機能により、特許請求の範囲、発明の概要、発明の詳細な説明を自動生成。専用の入力項目や機能で作業を効率化。

システムアーキテクチャ: クラウドベースのサービスで、特許明細書作成に最適化された専用 UI を採用。Azure OpenAI Service を使用しデータの再学習リスクを回避。

ユーザーインターフェース: 特許明細書作成専用の UI を提供し、ダッシュボード機能で案件の対応状況を一目で確認可能。

生成 AI/ChatGPT の活用状況: ChatGPT 連携機能により、ユーザーが入力した情報、アップピアエンジンに入力された発明情報、添付ドキュメントを基に、各項目に適したプロンプトでチューニングを行い文書を生成。

2.4 ユアサポ AI

AI 技術の活用方法: 事務所や企業の過去の出願書類データを AI に学習させ、文体・用語に合わせた精度の高い文章を自動生成。

システムアーキテクチャ: Microsoft Word アドインとして機能し、既存のワークフローを変更せずに導入可能な設計。

ユーザーインターフェース: 使い慣れた Microsoft Word 上で操作が完結するため、学習コストを最小化。

生成 AI/ChatGPT の活用状況: 生成 AI を活用して「まるで自分が書いたような」文章を自動生成。ローカル PC 上でのデータ保存により高い機密保持を実現。

3. 企業導入事例

3.1 TOKKYO.AI

導入企業の業種・規模: 特許事務所や電気機器メーカー（電動自動車分野）などが導入事例として紹介されている。

具体的な活用シーン: 特許事務所では従来の高額検索ツールに代わるものとして導入。電動自動車メーカーでは次世代電動自動車の開発プロジェクトで活用。

導入後の効果: 特許事務所では調査や分析にかかる時間が大幅に短縮され、パテントマップを簡単に作成してクライアントへの提案価値を向上。月額費用も数万円から 7,000 円へと削減。

3.2 AI Samurai

導入企業の業種・規模: 国内の特許事務所、法律事務所、企業などが導入。三井住友海上火災保険との共同で「知財保険」の提供も行っている。

具体的な活用シーン: 特許調査、文書作成、審査シミュレーションなどの業務効率化。MASS パートナーズ法律事務所と AI による特許調査に関する共同研究も実施。

導入後の効果: 具体的な導入後の効果に関する詳細な情報は限られているが、特許調査コストの最大 40%削減を目指している。

3.3 アップピアエンジン

導入企業の業種・規模: 特許事務所を中心に導入されているが、具体的な導入企業名や規模に関する詳細情報は公開されていない。

具体的な活用シーン: 明細書作成業務の効率化、案件情報の一元管理などに活用。

導入後の効果: 明細書作成にかかる時間の大幅削減が期待されるが、具体的な数値や事例に関する情報は限られている。

3.4 ユアサポ AI

導入企業の業種・規模: 国内複数の特許事務所で先行導入されており、今後全国の事業者への本格展開を目指している。

具体的な活用シーン: 特許明細書作成、請求項作成などの出願書類作成業務の効率化。

導入後の効果: 「発明者のアイデアを明確に言語化できるようになった」「品質の均一化が実現し、社内での承認プロセスが格段にスムーズになった」などの声が紹介されている。

4. サービスの狙いと現状

4.1 TOKKYO.AI

開発背景・市場ニーズ: 従来の特許検索ツールの UI が前時代的で高価格であるという課題

に対応するため開発。検索クエリからの知財漏えいリスク回避も目的のひとつ。

差別化ポイント: ChatGPT-4o の実装による高度な知財検索と独自のビッグデータ処理技術「X システム」による高速処理能力。企業の機密情報が外部に漏れないプロテクト機能も特徴。

現在の市場ポジション: 経済産業大臣賞を受賞するなど、認知度を高めている。日本国内の特許事務所や企業を中心に導入が進んでいる模様。

4.2 AI Samurai

開発背景・市場ニーズ: 大阪大学と北陸先端科学技術大学院大学による研究成果を基に、知財業務の DX 化を推進するために開発。特許調査や文書作成の負担軽減というニーズに応える。

差別化ポイント: 対話型の特許書類作成システム「AI Samurai ZERO」の実装。審査シミュレーション機能による特許登録可能性の事前評価（A～D ランク）。

現在の市場ポジション: 「AI Samurai ONE」の先行予約を開始し、大企業から中小企業まで幅広いターゲット層への展開を図っている。

4.3 アッピアエンジン

開発背景・市場ニーズ: 特許明細書作成業務の効率化と品質向上のニーズに応えるために開発。弁理士や特許事務所の経営経験者が開発に携わり、実務に即したシステムを目指している。

差別化ポイント: 特許明細書作成専用の UI とクラウドベースの案件管理。ISMS 認証（ISO27001）取得によるセキュリティの高さ。

現在の市場ポジション: β 版「ローマ」を経て、2024 年 9 月に ChatGPT 連携機能を追加するなど、機能拡充を続けている。

4.4 ユアサポ AI

開発背景・市場ニーズ: 特許出願数の増加に伴う明細書作成の工数増大、経験豊富な特許技術者の不足、担当者による品質のばらつきといった課題に対応するために開発。

差別化ポイント: Microsoft Word アドインとしての統合による学習コスト最小化。事務所や企業固有の文体・用語を AI に学習させ、「自分が書いたような」文章を生成する独自技術。

現在の市場ポジション: 2025 年 4 月に正式リリースされたばかりで、今後半年で弁理士事務所 50 カ所や弁理士を抱える大企業 10 社への提供を目指している。

5. 評判・ユーザーからのフィードバック

5.1 TOKKYO.AI

利用者の声: 「クライアントからの反応が大変良くなった」「調査や分析にかかる時間が大幅に短縮された」「パテントマップを簡単に作成してレポート提出が可能になった」などの声が紹介されている。

専門家の評価: 「プライベート特許検索[®]」については、革新的な UI と直感的な操作感、機能開発の速さが評価されている。

改善が求められる点: 公開されている情報からは、具体的な改善要望点は明らかでないが、生成 AI の品質向上が継続的な課題と推測される。

5.2 AI Samurai

利用者の声: 具体的な利用者の声に関する公開情報は限られている。

専門家の評価: AI 特許検索・分析ツールとしての評価はあるが、最新の生成 AI 機能を用いた特許文書作成支援については評価が確立されていない段階と思われる。

改善が求められる点: 特許文書作成における AI 生成文の品質や法的有効性の確保が課題として考えられる。

5.3 アップリアエンジン

利用者の声: 公開されている具体的な利用者の声や評判は限られている。

専門家の評価: ChatGPT 連携機能の追加により、特許明細書作成の効率化という点で評価されている。

改善が求められる点: Azure OpenAI Service を利用しているため、外部 API 連携によるセキュリティリスクの排除が継続的な課題と考えられる。

5.4 ユアサポ AI

利用者の声: 「ユアサポ AI を使うことで、発明者のアイデアを明確に言語化できるようになった」「品質の均一化が実現し、社内での承認プロセスが格段にスムーズになった」などの声が紹介されている。

専門家の評価: 弁理士ごとの書き方に合わせた文章を出力できる点が特徴として評価されている。

改善が求められる点: 生成 AI 技術の発展に伴う継続的な精度向上が課題と推測される。

6. 市場動向と将来予測

6.1 特許文書作成支援 AI 市場の現状

特許文書作成支援 AI 市場は急速に成長しており、特に ChatGPT などの大規模言語モデル (LLM) の登場により、2023 年以降、その成長が加速している。国内に限定してもリーガルテック企業や AI 特化型スタートアップが次々と参入し、競争が活発化している。特許出

願件数の増加と人材不足が市場拡大の主要な要因となっている。

6.2 AI 特許市場の規模と成長率

AI 分野全体では、日本の AI システム市場規模は 2023 年に 6,858 億 7,300 万円（前年比 34.5%増）となっており、2028 年には 2 兆 5,433 億 6,200 万円まで拡大すると予測されている総務省 [1](#)。特許関連の AI サービス市場も、この成長に比例して拡大していくと予測される。特に生成 AI 分野は急成長しており、世界的には 2030 年までに年平均 53.3%の速さで成長し、約 2110 億ドル（約 32 兆円）に達すると予測されている AI Market [2](#)。

6.3 将来の発展可能性

技術の進化: 生成 AI の性能向上により、より高品質な特許文書の自動生成が可能になると予測される。複雑な技術分野でも正確に理解・表現できる AI の開発が進むだろう。

サービスの多様化: 単なる文書作成支援だけでなく、特許戦略の策定支援、無効資料調査、侵害リスク分析など、より高度な知財業務の AI 化が進むと予想される。

国際展開: 現在は主に国内市場向けのサービスが中心だが、多言語対応や海外特許法に対応した AI サービスの展開も進むと考えられる。

6.4 課題と展望

法的・倫理的課題: AI 生成文書の著作権や法的責任の所在など、法制度の整備が今後の課題となる。経済産業省のグレーゾーン解消制度の適用を受けるなど、法的課題への対応も進んでいる。

品質と信頼性: 生成 AI による特許文書の品質保証と信頼性確保が重要課題。人間の専門家によるレビューと AI の組み合わせによるハイブリッドアプローチが主流となる可能性が高い。

市場競争の激化: 各社の差別化が一層重要になり、特許分野に特化した専門的な AI モデルの開発競争が激化すると予想される。

7. 各サービスの比較分析

7.1 技術的アプローチの違い

サービス名	主要技術	特徴的なアプローチ
TOKKYO.AI	ChatGPT-4o、独自「X システム」	プライベート特許検索と生成 AI の統合
AI Samurai	独自 AI、GPT	対話型システム、審査シミュレーション機能

サービス名	主要技術	特徴的なアプローチ
アッピアエンジン	ChatGPT、Azure OpenAI	特許明細書作成専用 UI、案件管理機能
ユアサポ AI	生成 AI、Word 統合	事務所/企業固有の文体学習、Word アドイン

7.2 価格体系の比較

サービス名	価格体系	備考
TOKKYO.AI	プライベート特許検索：IID 月額 20,000 円	初期費用 0 円
AI Samurai	「みんなの特許」：最低 5 万円（税別）から 「AI Samurai ONE」：企業向け 10 アカウントで年間 360 万円から	先行予約で正規価格より 20%割引 （先着 15 社限定）
アッピアエンジン	フリープラン：無料（月 3 件まで、閲覧制限あり） プロプラン：1 ユーザー月額 25,000 円（税抜き）	初期費用なし
ユアサポ AI	月額数万円から（利用規模に応じて変動）	国内複数の特許事務所で先行導入

7.3 対象顧客層の違い

サービス名	主要ターゲット	二次ターゲット
TOKKYO.AI	特許事務所、企業知財部	研究開発部門
AI Samurai	特許/法律事務所、企業知財部	スタートアップ企業
アッピアエンジン	特許事務所、弁理士	企業知財部
ユアサポ AI	特許/弁理士事務所	企業知財部

7.4 強み・弱みの分析

サービス名	強み	弱み・課題
TOKKYO.AI	<ul style="list-style-type: none"> ・ ChatGPT-4o の実装 ・ 独自ビッグデータ処理技術 ・ 知財漏えいリスク対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外特許対応の機能拡充中 ・ 具体的な成功事例の公開が限定的
AI Samurai	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査シミュレーション機能 ・ 対話型システムの独自性 ・ 大学発の技術基盤 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格帯が比較的高い ・ 導入事例の具体的な効果測定情報が少ない
アッピエンジン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特許明細書作成専用 UI ・ ダッシュボードによる案件管理 ・ ISO27001 認証取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フリープランの機能制限 ・ 他サービスと比較した差別化ポイントの明確化
ユアサポ AI	<ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Word 統合 ・ 事務所/企業固有の文体学習 ・ 高いセキュリティ（ローカル保存） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近のリリースのため実績が少ない ・ 競合との機能比較情報の不足

8. 総括と提言

8.1 各サービスの適合性評価

TOKKYO.AI: 特許検索と文書作成を統合的に行いたい大企業の知財部や、クライアントへの提案力を高めたい特許事務所に適している。特に情報漏えいリスクに敏感な組織に推奨される。

AI Samurai: 特許性評価や審査シミュレーションを重視する企業や事務所に適している。特許戦略の立案から文書作成までを一貫して行いたい場合に有効。

アッピエンジン: 特許明細書作成業務に特化したい弁理士や特許事務所に向いている。特にチーム内での案件管理を重視する組織に適している。

ユアサポ AI: 既存の Microsoft Word ワークフローを維持したまま生成 AI の恩恵を受けたい組織に最適。特に独自の文体や表現スタイルを維持したい特許事務所や企業に推奨される。

8.2 今後の市場展望

特許文書作成支援 AI 市場は今後も拡大を続け、以下の方向性で進化していくと予測される：

1. **専門性の深化:** 各業界・技術分野に特化した特許 AI 支援ツールの登場

2. **統合化の進展:** 特許調査から出願、権利化、維持管理までを一貫してサポートする総合システムへの発展
3. **国際対応の強化:** 多言語対応や各国特許法に対応した高度な国際特許支援機能の充実
4. **既存業務システムとの融合:** 企業の知財管理システムや PLM との連携強化

8.3 導入検討時の提言

特許文書作成支援 AI の導入を検討する際には、以下の点に留意することを提言する：

1. **業務フローとの整合性:** 既存の業務フローと親和性の高いシステムを選定すること
2. **セキュリティ対策:** 機密情報保護のためのセキュリティ対策が十分なサービスを選ぶこと
3. **カスタマイズ性:** 自社/自事務所の特性に合わせたカスタマイズが可能かを確認すること
4. **拡張性:** 将来的な機能拡張や他システムとの連携可能性を考慮すること
5. **費用対効果:** 導入コストだけでなく、運用コスト、学習コストも含めた総合的な費用対効果を検討すること

最終的には、各組織の特性や目的に最も適したサービスを選定することが重要である。また、AI 技術の急速な進化を考慮し、柔軟な対応が可能なシステム選定と継続的な評価が必要となるだろう。

参考文献

1. TOKKYO.AI 公式サイト [3](#)
2. TOKKYO.AI 価格ページ [4](#)
3. AI Samurai 公式サイト [5](#)
4. アップリアエンジン公式サイト [6](#)
5. ユアサポ AI 公式サイト [7](#)
6. 総務省 令和 6 年版 情報通信白書 [1](#)
7. 日経クロステック「第 4 次 AI ブームは本物か 特許と資金調達で検証」 [8](#)
8. 日経クロステック「生成 AI で特許文書作成も、知財戦略は質と量の両立へ」 [9](#)
9. PR TIMES「特許明細書作成システム appia-engine、ChatGPT 連携機能をリリース」 [10](#)
10. PR TIMES「特許出願書類作成を生成 AI で効率化、Word アドイン『ユアサポ AI』を正式リリース」 [11](#)



【出版記念セミナー】AI 関連発明の特許明細書の書き方

1 month ago



特許生成 AI を活用した特許明細書生成と、AI 特許検索【ChatGPT】

Sep 8, 2023



【拒絶対応支援ワークフロー】拒絶理由通知・解析レポートの内容確認

Jun 1, 2024

もっと詳しく

1

www.soumu.go.jp

2

ai-market.jp

3

www.tokkyo.ai

4

www.tokkyo.ai

5

aisamurai.co.jp

6

appia-engine.com

7

yoursup.co.jp

8

xtech.nikkei.com

[9](#)

xtech.nikkei.com

[10](#)

prtimes.jp

[11](#)

prtimes.jp